

JD 共済

No.49

発行日 平成28年 4月27日

〒939-8072 富山県富山市堀川町278
ジェイ・ディ共済協同組合

TEL.076-421-2221 (大代表)
FAX.076-425-9561
URL <http://www.jd-kyosai.com>
E-mail info@jd-kyosai.com

警察行政との連携により、 法と事故防止の講習会を開催

業界健全化に向けた 国交省新方針を踏まえて

国土交通省、警察庁および都道府県により、この4月から順次実施される「運転代行業における新たな利用者保護対策」に関する内容と事故防止の講習会を、3月14日（月）に新潟市で開催しました。

予定されている国土交通省の告示の一部改正に伴う、運転代行業界の現状と今後について、本組合理事長であり、公益社団法人全国運転代行協会の会長を兼任する丹澤が講話を行いました。丹澤理事長が前回、新潟を訪問したのは、運転代行業法が施行される以前で、その頃の代行業者は30社ほどしかありませんでした。その後、事業者数はかなり増え、業界も大きく変わったので、参加された方々にあらためて、運転代行の歴史、代行業界内の組織の変遷などをお伝えしました。そして、「運転代行業法の施行（平成14年6月）、各都道府県への国土交通大臣の事務・権限の一部移譲（平成27年4月）、さらに今後実施される『運転代行業における新たな利用者保護対策』の内容から考えると、代行業界は着実に変革期に入っている。料金問題をはじめとする多くの課題は、運転代行を『業』として取り組む方々にとって、事業継続の根幹に関わることなので、事業者自身が権限移譲先である都道府県の窓口と一緒に、解決に向けてしっかりと取り組んでほしい」と締めくくりました。また、来賓として講話をしてくださった新潟県警

察本部交通企画課・岩田係長からは、飲酒運転根絶の重要な受け皿を担っている事業者に向けて、「県内の事故は減少傾向にあるものの、飲酒運転による事故は依然として看過できない状況にある。飲酒運転根絶のために、代行業者の皆さんも、引き続き協力してほしい」との要請がありました。また、県内の重大事故のワースト原因として、夜間路上で寝ている人や横断歩道でない所を横断する歩行者や自転車を轢いてしまう事故などを挙げられ、視界が良くない夜間であるにもかかわらず、スピードを出しがちになる運転代行業務に対し、事業主として、従業員ドライバーをしっかり教育してほしいと話をされました。そして、続いて実施した、「運転代行業の事故防止DVDを活用し、過去の事故事例から運転代行に特化した事故防止のポイントをお伝えする事故防止講習会」においても、熱心にメモを取られる方々の姿がありました。最後の質疑応答では、多くの質問が出て、特に、従事者の労務管理や社会保険に関する質問が多く、運転代行を「業」として取り組む参加者の意識の高さがうかがえました。



年度末のお忙しい中、今回の講習会開催にご協力くださった新潟県、新潟県警察のご担当者様、誠にありがとうございました。この場をお借りして、あらためて御礼申し上げます。また、通常は休んでいらっしゃる時間帯であるにもかかわらず、参加してくださった多数の事業者・従事者の皆様、お疲れ様でした。今回の講習会の内容を、ぜひお役立てください。

本組合では、今後も、運転代行事業者の皆様が「安全・安心」にお客様をお送りできるよう、事故防止講習会を継続していきます。

第4回 開催しました

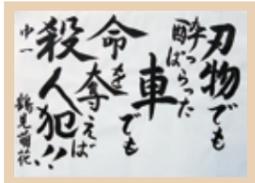
SDD全国子ども書道コンクール

飲酒運転根絶を目的として、FM OSAKAが推進し、JD共済がサポートパートナーを務めるSDD (=STOP!DRUNK DRIVING) PROJECTの一環として4回目を迎えた「SDD全国子ども書道コンクール」は、行政や関係団体から前回より多くのご後援をいただき、作品を寄せてくれた子どもたち、子どもたちの応募に際しご協力くださった保護者様、学校・書道教室の先生方、コンクール告知ポスターの掲示にご協力くださった飲食店、飲酒運転根絶の受け皿事業として告知して下さった運転代行業者様など、関わって下さったすべての皆様のお力添えにより、無事に終えることができました。誠にありがとうございました。応募数も2100作品を超え、回を追うごとに飲酒運転根絶を考えてくださる環境が着実に広がっていることを実感しております。子どもたちには実感として捉えにくいはずの飲酒運転に対して、子どもなりに知識を深め、子どもたちなりの「NO」を突き付けてくれました。

最優秀作品と受賞者のみなさん ※学年は応募当時のものです。

北海道・東北ブロック

〈最優秀作品 1点〉



鶴見 萌花さん(中1)

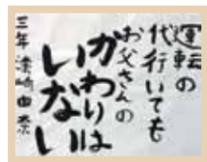


北海道・東北ブロックの受賞者の皆さん

(最優秀受賞者からのメッセージ)

「どちらも殺人犯なのに、刃物で人を殺せば悪意で、車は軽い気持ちでやってしまう。これがダメなんだとみんなに伝えたいと思いました。」

〈優秀作品 4点〉



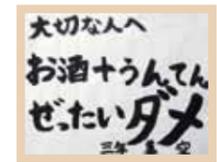
漆崎 由奈さん(小3)



今野 朱理さん(中3)



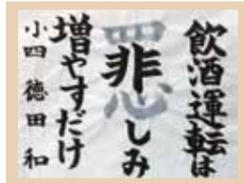
鎌田 恭輔さん(中2)



菅原 美空さん(小3)

関東・中部ブロック

〈最優秀作品 1点〉



徳田 和さん(小4)



関東・中部ブロックの受賞者の皆さん

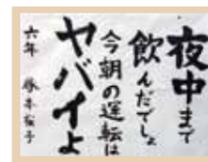
(最優秀受賞者からのメッセージ)

「危険な運転で大切な命を失った家族の本を読んで、被害者家族がどんなに悲しいかを知り、飲酒運転は絶対に許せない罪です、という気持ちで書きました。」

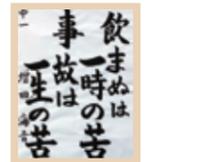
〈優秀作品 4点〉



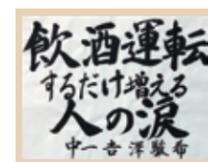
太田 夢菜さん(中1)



塚本 桜子さん(小6)



増田 海音さん(中1)



吉澤 駿希さん(中1)

今回の応募状況の特徴として、一昨年7月に女性4人が被害に遭われた、飲酒運転ひき逃げ事件のあった小樽からの応募が増えたことがまず挙げられます。これは市民の皆さんの飲酒運転に対する意識の高まりとともに、啓発活動への参加協力と、飲酒運転根絶を目的とするこのコンクールの主旨にご賛同くださる方が増えたことの結果ではないでしょうか。また、第1回コンクールからずっと応募してくれている子どもさん、パネリストの書かれた本を読んで「飲酒運転は許せない」と応募してくれた子どもさんなど、どの地域でも、子どもたちが自分で考え、強い決意をもってメッセージを伝えてくれたことが印象に残りました。

そして、昨年の岩手県大槌小学校からのご応募に続き、今年は福島県南相馬市からたくさんのご応募をいただいたこともお伝えしたいと思います。復興途上にある被災地の方々が、復興とは無縁に思える飲酒運転に目を向けてくださるきっかけになれたことが、コンクール主催者としてうれしく、「ぜってえ負けん」という言葉に込められた前向きな強い思い・願いに胸を打たれました。この書道によるメッセージが地域の運転代行業の利用促進につながることを願っております。



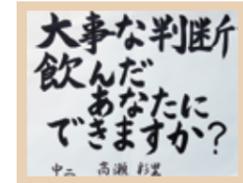
後援

北海道 北海道教育委員会 北海道警察 札幌市 札幌市教育委員会 小樽警察署 札幌方面北警察署 砂川警察署 青森県 青森県警察 岩手県 岩手県警察 宮城県 宮城県警察 気仙沼市 秋田県 山形県 山形県教育委員会 山形県警察 福島県 福島県警察本部 茨城県 埼玉県 埼玉県警察 千葉県 千葉県警察 東京都 警視庁交通部 神奈川県 神奈川県警察 新潟県 新潟県警察 富山県 富山県警察 山梨県警察 長野県 長野県警察 静岡県 静岡県警察 愛知県 三重県 三重県教育委員会 滋賀県 滋賀県警察 守山市 滋賀県守山警察署 守山市教育委員会 野洲市 京都府 京都府警察 大阪府 大阪市 兵庫県 兵庫県警察 神戸市 奈良県 奈良県教育委員会 奈良県警察 橿原市教育委員会 和歌山県 和歌山県警察 鳥取県警察 島根県 島根県警察本部 岡山県 岡山県警察 岡山県教育委員会 広島県 広島県警察 広島市 東広島市 山口県 山口県警察 愛媛県警察 福岡県 福岡県警察 福岡市 粕屋町 佐賀県 佐賀県警察 熊本県 熊本県警察 熊本市 大分県 大分県警察 宮崎県 宮崎県警察 鹿児島県警察 沖縄県 沖縄県警察 一般財団法人全日本交通安全協会 一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会 一般社団法人日本自動車連盟 (J A F) 全国飲食業生活衛生同業組合連合会 株式会社東京交通新聞社 公益社団法人全国運転代行協会 <順不同>

最優秀作品と受賞者のみなさん

関西・中四国ブロック

〈最優秀作品 1点〉



高瀬 彩里さん(中2)

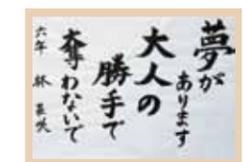


近畿・中四国ブロックの受賞者の皆さん

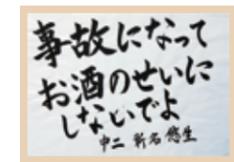
(最優秀受賞者からのメッセージ)

「飲酒運転してはいけないということもう一度問いかけるために書きました。自分の作品をみて、1件でも無くなればいいと思いました。」

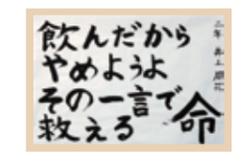
〈優秀作品 4点〉



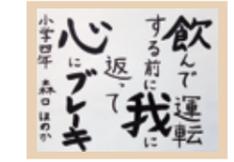
林 華咲さん(小6)



新名 悠生さん(中2)



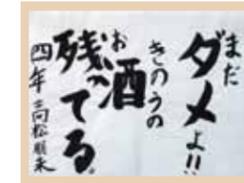
井上 風花さん(中2)



森口 ほのかさん(小4)

九州・沖縄ブロック

〈最優秀作品 1点〉



高松 朋未さん(小4)

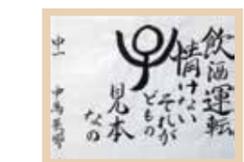


九州・沖縄ブロックの受賞者の皆さん

(最優秀受賞者からのメッセージ)

「お酒に強いから、少しだから大丈夫と運転する人がまだまだたくさんいること知り、二日酔いにも注意して安全を守ってほしいと思って書きました。」

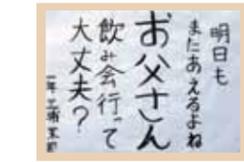
〈優秀作品 4点〉



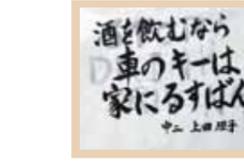
中馬 菜那さん(中1)



秋山 瑠輝さん(中1)



三浦 菜耶さん(中1)



上田 理子さん(中2)

LIVE SDD 2016 会場での配布物に込めたJD共済職員の思い ⇒⇒⇒ 私たちにできること

私たちは、「飲酒運転根絶のためには運転代行が地域に必要な不可欠である」と考えています。毎年1万人以上が集うこのイベントで、**飲酒運転根絶の受け皿である代行**の存在と**利用促進**をアピールすることが、飲酒運転のない未来を築くために私たちができることと考え、飲酒運転が「0(ゼロ)」になるように願い、チラシとクリアファイルを作りました。チラシは、夜に利用することが多い運転代行業をイメージした、安心できる優しいデザインにし、裏面には書道コンクールの作品と併せて、代行を利用するときの豆知識を紹介しました。クリアファイルは、どんな用途でも使用していただきやすいようにクリア部分を多くし、「**お酒を飲んだら運転代行**」という言葉が常に目に付くことで、運転代行利用促進につながるよう、と考えて作成しました。



LIVE SDD 2016

3月27日(日) 大阪城ホールにて開催

「飲酒運転根絶」



子どもたちの発する
メッセージと

1万人が集った
ライブ会場の様子を
お伝えします。



13時、大阪城ホールに到着しました。
大勢の方がゲートに向かいます。



受付にはドネーションBOX(募金箱)が置かれています。
もちろん職員もBOXへ。
※全額が交通遺児等育成基金及び同基金内に設立した
SDD基金に寄付されます。

開場1時間前にも関わらず、すでに
たくさんのSDDメッセン
ジャーが並んでいます。



開演して間もなく、各地区から選ばれた子どもたちが、
10,000人の前で堂々とそれぞれ作品に込めた思いを
発表しています。



Official Photo (LIVE SDD 2016)

LIVE SDD 2016出演アーティスト	STARDUST REVUE / TRF / 岸谷香 / ゆず / MINMI / 家入レオ / Silent Siren / ファンキー加藤 / 和楽器バンド / EXILE SHOKICHI / 西内まりや / 加治ひとみ
LIVE SDD 2016総司会	小倉智明
LIVE SDDメッセンジャーズ・アーティスト	NAUGHTYBOYS
JD共済 presents 全国こども書道コンクール	森大衛
メディアパートナー	AIR-G / K-mix / FMFUUKUOKA

飲酒運転根絶へ 子供が書道メッセージ

JD共済、大阪城ライブで訴え

Official Photo(LIVE SDD 2016)

飲酒運転の根絶を自覚する0点の応募があった。グラウンドファイナルで最優秀作の4人が「きのうのお酒残った」で、大事な判断で下さいますか?、命を奪って非・悲しを増やすだけ、と、合作したメッセージを書き上げ、アピールした。

16日(3月27日)、大阪城ホールで開かれ、1万1000人の観客が見守る中、12組のアーティストが4時間半のステージを繰り広げた。司会の小倉智明さんが「SDDを大阪から全国へ発信しよう」と呼びかけた。ステージ上、ジェイ・ディ共済協理(丹澤忠義)が主催する「全国こども書道コンクール」の最優秀4作品が発表された。全国の小中学生から2000点の応募があった。

丹澤理事は「子供たちの飲酒運転に対する厳しい思いがメッセージに込められていて、子供ならできない言葉がふれ出ている」と絶賛。「飲酒運転事故がゼロになるまで一層力を入れた」と語った。

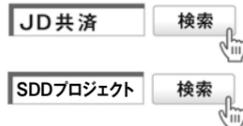
「JD共済ではインターネット加工した書道作品を無料で貸し出し、啓発活動を展開している。問い合わせは事業推進企画部 ☎076(405)6166。



書家 森大衛さんの作品

2016年4月4日(月)付
東京交通新聞に
掲載されました。

詳しくはJD共済HP、
またはSDDプロジェクトHPからどうぞ。



ライブに参加したメッセンジャーのこえを集めてみました



子どもたちの書道パフォーマンスに合わせて演奏していた「和楽器バンド」の鈴華ゆう子さんが、「メンバー全員が車を運転するから、飲んだときはタクシーや代行を使います」と言っていたのが印象的だったな。アーティストにも「代行」が定着してきたのだなと感じたよ。総合司会の小倉さんも「飲んだら代行使うのが当たり前」と言っていたしね。(30代男性Cさん)



飲酒運転で事故を起こしたら殺人になると思わずに、軽く考えて運転する人に「刃物を持った殺人犯と同じだよ」と伝える言葉が胸に刺さりました。「その通りだ!」と近くの席からも聞こえてきました。今日会場に来た人たちは、この子どもの言葉を聴いて、なぜ飲酒運転がダメなのかよくわかったんじゃないかと思えます。(30代女性Yさん)



子どもたちの書道作品が読み上げられて、一人ずつメッセージに込めた思いを話すたびに「おお〜」というどよめきが会場全体に上がっていたのよ。それが感動的だったわ。特に私と同じお母さん世代の人たちから。私も家庭を守りたいものね。(40代女性Nさん)



最後の子どもたちの書道パフォーマンスには感動したな。子どもってすごいなと思ったよ。大人が変わらないとダメだね。そして被害に遭うのは女性と子どもが多いと聞いてショックだった。僕も家族を守らなくちゃ!(20代男性Iさん)



Official Photo (LIVE SDD 2016)



今日は好きな歌手がたくさん出るから、母と一緒に来ました。最初は飲酒運転のことはよくわからなかったけど、母に聞いて、自分より小さい子が考えて書いているのを見て「すごいな」と思ったし、私の好きな歌手も「飲酒運転はダメだよ」と言っていたので、私も考えます。大人ももっと子どものメッセージに反応してほしいです。(中学3年生Rさん)

メッセンジャーのこえは
JD共済が目指す「飲酒運転させない環境づくり」の大きな力になります

飲酒運転が奪ったもの <大切なひとの未来・家族>

こども書道コンクールのアワードセレモニー審査員・パネリストとしてご参加いただいた、飲酒運転事故のご遺族のお二人に手記をお寄せいただきました。運転代行事業者の皆さんは、新たな悲しみを作り出さないためにも、根絶の受け皿事業として、啓発活動と安全・安心な利用促進にお努めいただきたいと思ひます。

【関東・中部地区パネリスト 愛知県 眞野哲さん】

「飲酒運転撲滅」それは、誰もが願っている事だと思います。それなのに、何故無くならないのでしょうか?私の息子は平成23年10月30日に、飲酒運転の車に轢かれ亡くなりました。息子は大学1年生。輝かしい未来に向かって歩き始めたところでした。加害者は外国人で、母国でも免許を取った事がない無免許運転、そのうえ無保険で自賠責保険すら入っていない車でした。息子の事故の前に追突事故を起こし逃走中、夜間ライトを消し、100キロの速度で一方通行を逆走し、自転車で横断歩道を走っている息子を40メートルはね飛ばし、更に逃走するという悪質な事故でした。それほど悪質な事故にもかかわらず、当時の「危険運転致死傷罪」には該当せず、「自動車運転過失致死傷罪」で裁判は終わってしまいました。私は怒りの矛先を法改正に向け、訴え続けました。



眞野貴仁さん

法改正で罪を重くしても、今なお飲酒運転をする方を目にします。名古屋の居酒屋には駐車場を完備してあるお店が沢山あり、閉店時には、満車だった駐車場に車が一台もいなくなるのです。「飲んだら乗らない」という当たり前のことがどれだけ浸透しているのか疑問に思ひます。運転代行を利用してれば助かる命もあったでしょう。「少ししか飲んでないから大丈夫。自分は酔っていないから大丈夫。」その一瞬の気の緩みから自分の人生も、何より被害者に関わっている全ての人々の人生を狂わせてしまいます。飲酒運転は100%ゼロにする事が出来るのです。運転する人もしない人もお酒を飲んで運転してはいけないと意識することです。これが常識であると誰もが思える社会にしたいと強く願ひます。

【関西・中四国地区パネリスト 大阪:河本友紀さん】

暖かくなり、近所の公園の桜が咲き始め春の訪れを感じる季節となりました。去年の今頃、娘はよく実家に帰り、愛犬を連れこの公園に散歩に出掛けていたなと思ひ出します。娘・恵果は昨年5月11日、自宅に近いアメリカ村(大阪市)で飲酒運転で走行したSUVに撥ねられ死亡しました。加害者は自宅より約17キロもある飲食店に車で向かい飲酒した後、駐車場へ向かう道中でお酒を購入して飲酒し車を発進させた結果、一旦停止を怠り一方通行を逆走して事故を起こしました。



河本恵果さん

捜査の結果悪質性を認め、【危険運転致死傷】で送検した罪名を、たった4日で【過失運転致死傷】と軽罪に変更し起訴されてしまいました。あまりの理不尽な理由に、どうかしたい一心で裁判停止・訴因変更を求め検察庁へ上申書を提出したり、4ヶ月に渡る署名活動をしました。どうして遺族がこのように二重三重の苦しみを受けなくてはならないのでしょうか?

この1年の生活は壮絶なものでした。どんなに辛くても時間は止まってくれませんし巻き戻しもできませんし、働かなくてははいけません。おかしな表現にはなりますが、私はあの日から娘と一緒に死んだつもりで生きてきました。私自身、一滴でもお酒を飲む時は代行業者に依頼するか他の交通手段を利用します。なのになぜ自分の娘が飲酒運転の犠牲にならないといけなかったのか・・・そしてなぜ同乗者がいたにも関わらず誰も飲酒運転を止めなかったのか・・・身勝手な飲酒運転で私たち家族が崩壊してしまいました。こんな辛い思いをする人がいなくなる世の中になるように祈ってやみません。(4月2日記)

いろいろ

毎回この場で繰り返しお伝えしておりますが、飲酒運転するものに、「するな」と言うだけでは、残念ながら飲酒運転はなくなりません(「事故を起こすなよ」と言うだけでは事故が無くならないのと同じです)。家族・友人・同僚・飲食店など、全ての人が「飲酒運転させない環境」(ストッパー)として言葉を発し行動しなければ無くすることはできません。運転代行業は、「させない環境」の一員として地域に無くてはならない存在であり、とても大きな役割を担っておられます。事業者組合員の皆様を含め、書道作品をご覧になるすべの方が、子どもたちのメッセージを心に刻み、飲酒運転根絶に取り組んでいただければ幸いです。それが必ず運転代行利用促進に繋がります。車で飲みに行かれる方へお伝えください。「家に帰るまでが飲食代金」です。

契約専用のTEL・FAX

TEL	0120-21-4455	平日(月~金) 10:00~18:00
FAX	0120-25-9561	24時間365日

事故専用のTEL・FAX

TEL 24時間	0120-88-7654	夜間・休日は 電話オペレーターが承ります
FAX	0120-88-2508	24時間365日